

平成 15 年 度

印西市内遺跡発掘調査報告書

2 0 0 4

印 西 市 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、平成15年度に国庫補助を受け実施した印西市内遺跡発掘調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理作業は印西市教育委員会が行った。
3. 発掘調査及び地形測量を行った遺跡は次のとおりである。

天神台遺跡（第13地点） 47.75㎡/331.99㎡ 調査日 平成15年8月18日
大畑遺跡 82.75㎡/632㎡ 調査期間 平成15年8月19日～平成15年8月21日
道作2号墳 2,000㎡ 調査期間 平成16年2月29日～平成16年3月5日（地形測量）
4. 本書で使用した国土地理院発行2万5千分の1地形図は「龍ヶ崎」（平成13年5月1日発行）と「小林」（平成12年7月21日発行）である。
5. 発掘調査から本書刊行までの間、次の方々のご指導、ご協力を賜った。記して感謝を申し上げます。（敬称略、順不同）
千葉県教育委員会、鈴木俊明、鈴木圭一、大澤孝

凡 例

1. 遺構番号は発掘調査時において使用した番号を踏襲している。
2. 第4、6、7、8図中の方位は磁北を示す。
3. 遺構実測図中の高さの表示は東京湾平均海面からの標高である。
4. 遺構及び遺物実測図の縮尺率は実測図脇に表示したスケールを参照されたい。
5. 遺物出土位置を示す記号は●である。
6. 土器断面を塗りつぶしたものは須恵器を示す。

目 次

例言

凡例

第1章 天神台遺跡（第13地点）

| | |
|-------------|---|
| 第1節 遺跡の立地 | 1 |
| 第2節 確認調査の結果 | 1 |
| 第3節 出土遺物 | 1 |
| 第4節 まとめ | 3 |

第2章 大畑遺跡

| | |
|-----------------|---|
| 第1節 遺跡の立地 | 3 |
| 第2節 確認調査の結果 | 3 |
| 第3節 精査した遺構と出土遺物 | 3 |
| 第4節 まとめ | 8 |

第3章 道作2号墳

| | |
|---------------|---|
| 第1節 調査の目的 | 9 |
| 第2節 道作古墳群について | 9 |
| 第3節 道作2号墳について | 9 |
| 第4節 地形測量の成果 | 9 |

挿 図 目 次

| | |
|---------------------|----------------------|
| 第1図 遺跡位置図 | 第8図 掘立柱列実測図 |
| 第2図 天神台遺跡（第13地点）地形図 | 第9図 3トレンチ出土遺物実測図（1） |
| 第3図 トレンチ配置図 | 第10図 3トレンチ出土遺物実測図（2） |
| 第4図 出土遺物実測図 | 第11図 道作2号墳位置図 |
| 第5図 大畑遺跡地形図 | 第12図 道作古墳群状況図 |
| 第6図 トレンチ配置及び遺構検出状況図 | 第13図 道作2号墳測量図 |
| 第7図 1号住居跡及び出土遺物実測図 | |

写 真 図 版

| |
|---|
| 図版1 天神台遺跡（第13地点）近景、トレンチ1、トレンチ2、トレンチ3、出土遺物 |
| 図版2 大畑遺跡近景、トレンチ1、トレンチ2、トレンチ3、1号住居跡完掘、掘立柱列完掘、1号住居跡出土遺物 |
| 図版3 大畑遺跡3トレンチ出土遺物 |
| 図版4 道作2号墳 西側から、北西から、東南から、後円部から前方部を望む |

第1章 天神台遺跡（第13地点）

第1節 遺跡の立地（第1図及び第2図）

天神台遺跡は北に利根川、南に亀成川を望む東西に延びた標高24～25mの台地上に立地する。過去に12ヶ所を発掘調査しており、縄文時代、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代の集落の存在を確認している。今回発掘調査した第13地点から北東約350mの位置には縄文後期の貝塚である天神台貝塚、南東約500mの位置には8世紀初頭に建立された木下別所廃寺跡が存在する。また、印西中学校北側の谷津の南向き斜面からは木下別所廃寺跡に葺いた瓦を焼いた曾谷ノ窪瓦窯跡が存在する。大規模な発掘調査は行われてはいないが、天神台遺跡は印西市内で最も広範囲で時間幅も広い遺跡である。

今回の発掘調査は個人住宅建築に伴うもので、事業地331.99㎡に対し、47.75㎡の確認調査を実施した。



第1図 遺跡位置図(S=1/25,000)

第2節 確認調査の結果（第3図 図版1）

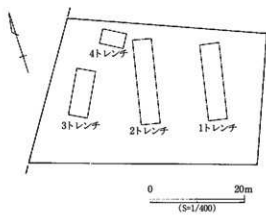
建築計画を考慮し4ヶ所のトレンチを設定し確認調査を実施したが、遺構は検出されなかった。出土遺物はトレンチ調査中、2点出土したのみであった。

第3節 出土遺物（第4図 図版1）

1トレンチと2トレンチから縄文土器が一片ずつ出土した。



第2図 天神台遺跡(第13地点)地形図(S=1/5,000)



第3図 トレンチ配置図



第4図 出土遺物実測図

1. 深鉢の胴部片。縦位に施した竹管もしくは棒状工具による2本の沈線により文様体を区画している。沈線間はヘラミガキを施し、沈線の左右にはRLの原体を縦位に施文している。焼成は良好で、胎土に長石を含む。
2. 鉢の胴部片。横位に沈線を施し、沈線の下部はRLの原体を施文している。焼成は良好で、胎土に石英を含む。

第4節 まとめ

事業地が接する市道改良工事に伴う発掘調査では縄文時代の住居跡1軒、弥生時代の住居跡4軒が検出していることから、数基の遺構検出と相当数量の遺物の出土を想定していたが、結果としては縄文土器2点を出土したのみであった。今回の調査地点は天神台遺跡の中でも遺構・遺物が稀薄な場所と考えて良いであろう。出土した縄文土器については両遺物とも縄文時代中期（加曾利E式期）に帰属するものと考えられる。

（参考文献）

（財）印旛郡市文化財センター 「千葉県印旛郡印西市天神台遺跡発掘調査報告書」 1987年

（財）印旛郡市文化財センター 「千葉県印西市天神台遺跡-印西市道08-166号線埋蔵文化財調査-」 2000年

第2章 大畑遺跡

第1節 遺跡の立地（第1図及び第5図）

大畑遺跡は北に利根川、南に亀成川を望む東西に延びた標高23～24mの台地上に立地する。過去に発掘調査を行った経歴はないが、遺跡内にある畑では容易に土器片を発見することができることから比較的密度の濃い遺跡であることが想像できる。周辺には印西市指定文化財（史跡）で、貝化石層から切り出した石材で横六式石室を構築した上宿古墳が所在する。また、同一台地上の東側には第1章で報告した天神台遺跡があり、周辺の遺跡の状況からも大畑遺跡は原始・古代の遺跡が立地するのに条件が整った環境であったと考えられる。

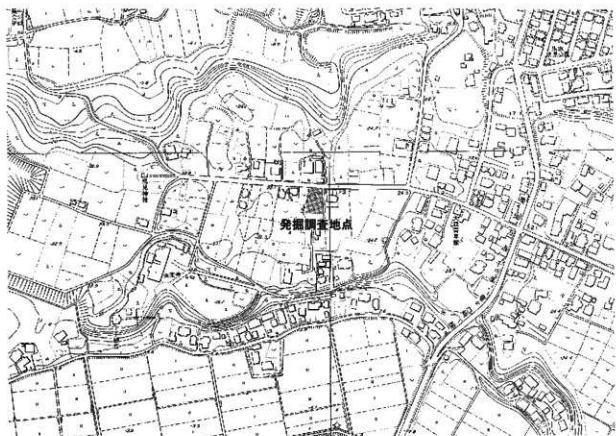
今回の発掘調査は個人住宅建築に伴うもので、事業地632㎡に対し、82.75㎡の確認調査を実施した。

第2節 確認調査の結果（第6図 図版2）

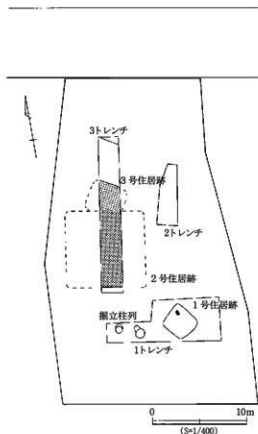
建築計画を考慮し3ヶ所のトレンチを設定し確認調査を実施した。1トレンチは事業地内の南側に東西方向に設置し、住居跡1軒（1号住居跡）と掘立柱列の柱穴2基を検出した。これらの遺構については住宅建築予定範囲に当たるため精査を行ったので、その詳細については次節で言及する。2トレンチは事業地内の北寄り東側に南北方向に設置したが、遺構・遺物を検出することはできなかった。なお、このトレンチが不定形なのは立木があったためである。3トレンチは事業地内の北寄り西側に南北方向に設置した。南半に暗褐色の覆土でロクロ整形の坪を出土した住居跡（2号住居跡）と1トレンチの1号住居跡と同じ覆土の住居跡（3号住居跡）の2軒を検出した。また、トレンチ北端部にも遺構らしいシミも検出された。3トレンチから検出された遺構については、住宅建築範囲外になるので確認のみで止めた。

第3節 精査した遺構と出土遺物

（1）1号住居跡（第7図 図版2）



第5図 大畑遺跡地形図(S=1/5,000)



第6図 トレンチ配置及び遺構検出状況図

1 トレンチの中央より東の位置に検出した。形状は方形で北東に面する壁が外側に膨らみ、主軸方向は北東方向に傾く。規模は3.21m×3.09m、深さ0.13mを計測し、比較的小規模で浅い住居跡であった。覆土は一層でロームブロック、ローム粒子をわずかに含む黒色土が堆積していた。床面は直床で中央付近はよく踏み固められていた。また、住居跡北コーナー付近には平面形態が楕円形の炉跡が検出された。その長軸は住居跡北コーナーと南コーナーを結ぶ対角線とほぼ平行で、規模は長径0.71m、短径0.47m、深さ0.2mを計測する。炉跡の覆土は焼土粒子、灰を多く含む黒色土が堆積していた。なお、柱穴は検出されなかった。

(2) 1号住居跡出土遺物 (第7図 図版2)

1. 小型甕。口縁部と底部の一部を欠損する。口径(復元)9.4cm、遺存器高8.0cmを計測する。焼成は良好で、色調は赤褐色を呈し、胎土に石英、小石を含む。調整は、口縁部外面にヨコナデ、体部外面上半に刷毛目調整後ナデ、一部その後ヘラミガキ、体部外面下半はヘラケズリ

後ナデを施している。口縁部内面には刷毛目調整、体部内面にヘラナデ後ナデを施している。

2. 高坏脚部 3/5。上端部に透かしの孔が3ヶ所確認できる。底径(復元) 6.5cm、遺存器高5.4cmを計測する。焼成は良好で、色調は橙褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。調整は外面にヘラミガキ、内面にヘラケズリ後ナデを施している。

3. 壺頸部片。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に長石、小石を多く含み、石英を含む。調整は外面に櫛状工具による横走り波状文と縦位の施文が施されている。

4. 壺口縁部片。焼成は良好で、色調は暗褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。外面に附加縄文RL+RLが施文され、口唇部には原体押圧による刻みが施されている。内面の調整はヨコナデである。

(3) 掘立柱列(第8図 図版2)

掘立柱列は1トレンチの西半部から検出された。掘立柱建物跡の一部と考えられるが、確証がないため掘立柱列という名称を用いた。検出された柱穴は2基で、東側のものをP1、西側のものをP2とした。P1の柱底部分は深さ0.4m、底径0.9mを計測する。P2の柱底部分は深さ0.33m、底径(楕円形) 0.55m×0.35mを計測する。両柱穴の間隔は1.3mであった。

(4) 3トレンチ出土土器(第9、10図 図版3)

3トレンチからは多く遺物が出土したが、ほとんどが2号住居跡の覆土上面からであった。

1. 土師器坏。口縁部の一部を欠く。遺存割合2/3。口径11.7cm、底径6.8cm、器高4.0cmを計測する。焼成は良好で、色調は橙色及び暗褐色を呈し、胎土に小石、砂粒を含む。調整は口縁部外面にヘラケズリ後ヨコナデ、体部外面にヘラケズリ後ヘラケズリの稜線を消すようにヘラミガキ、底部外面に手持ちヘラケズリを施している。内面はヘラナデ後ヘラミガキを施している。

2. 土師器坏。口縁部の一部を欠く。口径13.0cm、底径6.4cm、器高4.2cmを計測する。焼成は良好で、色調は淡い橙色を呈し、胎土に小石、赤色粒子、白色粒子を含む。調整はロクロ整形で、回転糸切り後、底部と体部下端の外面に回転ヘラケズリを施している。

3. 須恵器坏。口縁部1/3を欠く。口径13.2cm、底径7.4cm、器高4.2cmを計測する。焼成は良好で、色調は暗褐色を呈し、胎土に小石、白色粒子を含む。調整はロクロ整形で、底部外面に回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリを、体部外面下端に手持ちヘラナデ(弱いヘラケズリか?)を施している。

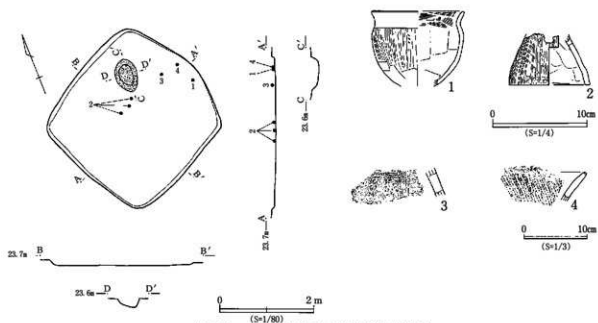
4. 須恵器坏。遺存割合1/4。口径(復元) 12.0cm、底径(復元) 6.8cm、器高4.2cmを計測する。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子、小石を含む。調整はロクロ整形で、底部と体部下端の外面に手持ちヘラケズリを施している。

5. 須恵器坏。底部2/5。底径(復元) 7.6cm、遺存器高2.2cmを計測する。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子、雲母、小石を含む。調整はロクロ整形で、底部外面に回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ、体部外面下端に手持ちヘラケズリを施している。

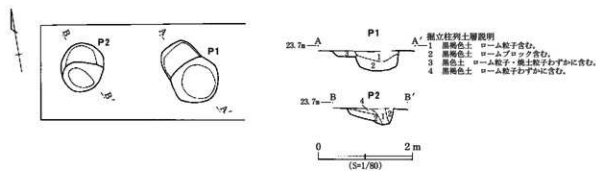
6. 須恵器蓋。口縁部1/5。口径(復元) 19.5cm、遺存器高2.7cmを計測する。口縁端部を垂直に折る。焼成は良好で、色調は濃い灰色を呈し、胎土に小石、白色粒子を含む。調整はロクロ整形である。

7. 須恵器蓋。口縁部1/6。口径(復元) 17.4cm、遺存器高2.2cmを計測する。口縁端部を垂直に折る。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に小石、白色粒子を含む。調整はロクロ整形である。

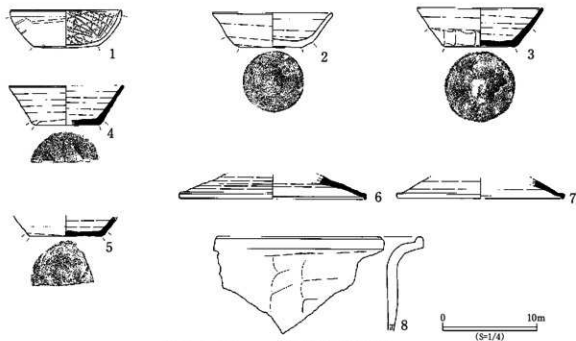
8. 土師器壺口縁部。遺存器高7.6cmを計測する。焼成は良好で、色調は淡い橙色を呈し、胎土に白色粒子、雲



第7図 1号住居跡及び出土遺物実測図



第8図 掘立柱列実測図



第9図 3トレンチ出土遺物実測図(1)

母、小石を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面にヘラナデを施している。

9. 土師器甕口縁部 1/5。口径(復元) 14.0cm、遺存器高4.2cmを計測する。焼成は良好で、色調は外面が赤褐色、内面が黒色を呈している。胎土に白色粒子、半透明粒子を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に縦位ヘラケズリ、体部内面にヘラナデを施している。

10. 土師器甕口縁部 1/4~1/5。口径(復元) 13.8cm、遺存器高3.8cmを計測する。焼成は良好で、色調は暗褐色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子、砂粒を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に縦位ヘラケズリ、体部内面にヘラナデを施している。

11. 土師器甕底部 1/6。底径(復元) 8.4cm、遺存器高2.3cmを計測する。焼成は良好で、色調は橙褐色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子を含む。調整は体部外面にヘラミガキ、内面にヘラナデを施している。底部外面に木葉痕を残している。

12. 須恵器甕口縁部 1/6。口径(復元) 20.3cm、遺存器高8.7cmを計測する。焼成は良好で、色調は黒色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子、雲母、小石を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に縦位平行叩き目、体部内面に叩き調整後ヘラナデを施している。

13. 須恵器甕口縁部。遺存器高14.6cmを計測する。焼成は良好で、色調は灰褐色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子、小石を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に横位平行叩き目、体部内面にヘラナデを施している。

14. 須恵器甕口縁部。遺存器高9.8cmを計測する。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に白色粒子、雲母を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に横位平行叩き目、体部内面にヘラナデを施している。

15. 須恵器甕口縁部。遺存器高5.2cmを計測する。焼成は良好で、色調は濃い灰色を呈し、胎土に白色粒子、小石を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に横位平行叩き目、体部内面にナデを施している。

16. 須恵器甕口縁部。遺存器高4.7cmを計測する。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子、小石を含む。調整は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に横位平行叩き目、体部内面にヘラナデを施している。

17. 須恵器体部片。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に白色粒子を含む。調整は外面に平行叩き目を格子状に施している。内面には同心円状の当て具痕が確認できる。外面に自然釉がかかる。

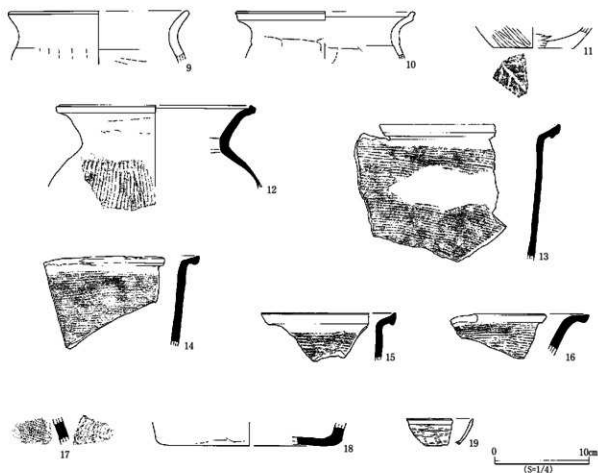
18. 須恵器甕底部 1/4。底径(復元) 18.4cm、遺存器高2.4cmを計測する。焼成は良好で、色調は灰色を呈し、胎土に白色粒子、半透明粒子を含む。調整は外面にヘラケズリ、内面にヘラナデを施している。

19. 土師器環口縁部片。遺存器高2.9cmを計測する。口唇部がやや細る。焼成は良好で、色調は淡褐色を呈し、胎土に白色粒子、赤色粒子を含む。口縁部内外面にヨコナデ、体部外面にヘラケズリ後ヘラミガキ、体部内面にヘラミガキを施している。口縁部内面には摩耗が確認できる。

第4節 まとめ

今回の調査では3軒の住居跡と掘立柱列の柱穴2基を検出した。ここではそれぞれの遺構の時期について簡単に触れることとする。

1 トレンチから検出した1号住居跡については形状と出土遺物から弥生時代後期に帰属すると考えるが、古墳時代前期の可能性も残す。掘立柱列については覆土中から小片かつ、わずかであるが遺物を出土した。その中にはロクロ整形の土師器環の破片が含まれていることから、奈良・平安時代の遺構と判断したい。3トレン



第10図 3トレンチ出土遺物実測図

チで検出した2号住居跡については第9、10図で図示した遺物を出土した。それら遺物の特徴から2号住居跡を奈良時代の遺構としたい。3号住居については遺物を出土していないが、遺構確認面での覆土の色調が1号住居跡のものと極めて類似しているので1号住居跡と同時代の遺構と考えられる。

今回発掘調査を行った地点は、当初、埋蔵文化財分布地図では周知遺跡の範囲内に含まれていなかったが、現地踏査、試掘及び今回の調査を行った結果、埋蔵文化財を包蔵する範囲となることが明確となった。大畑遺跡が所在する台地上は天神台遺跡、上宿古墳等いくつかの遺跡が所在することから、大畑遺跡も広範囲に把握する必要があると思われる。

第3章 道作2号墳

第1節 調査の目的

道作古墳群は印西市内で唯一現存する古墳群であり、良好な状態の古墳が数基確認できる。印西市教育委員会ではこの古墳群の重要性を鑑み、古墳群の中の2号墳を地形測量調査を実施した。

第2節 道作古墳群について（第11、12図）

道作古墳群は印西市小林字馬場に所在する古墳群である。この古墳群は北東に延びる幅の狭い標高約30mの台地上に立地する。道作古墳群が所在する小林地区は5世紀初頭の埴輪が出土した鶴塚古墳、小林古墳群、馬場古墳や駒形古墳など市内でも最も多くの古墳が確認されている地区である。道作古墳群の東には古墳時代の集落である駒形北遺跡が所在し、その関係に興味を持たれるところである。

道作古墳群の内訳は、平成9年に千葉県教育委員会から刊行された埋蔵文化財分布地図では円墳9基、前方後円墳5基、方墳1基と報告されている。また、平成10年に印西市から刊行された『印西の歴史』創刊号の中では円墳13基、前方後円墳7基としている。この差異については今後の詳細な地形測量調査等で解消されるであろう。

道作古墳群の調査は1号墳について平成6年度に地形測量を行い、平成8年度に1号墳の周溝の確認調査を実施している。平成8年度の調査では下総型円筒埴輪の破片が検出された。

第3節 道作2号墳について（図版4）

道作2号墳は古墳群の中、最も北の谷津に寄った場所に位置する。その特徴は前方部によく現れており、他の前方後円墳が台形状であるのに対し、2号墳は長方形である。また、その高さも後円部より低く平坦であるという特色が目視できた。今回の地形測量調査は2号墳の特徴を図面で捉える狙いもあった。

第4節 地形測量の成果（第13図）

今回の地形測量によって判明したことは、墳長約36m、前方部の幅約20m、後円部の直径約26mを計測し、墳丘頂点（後円部）と墳丘すその比高差約3m、前方部頂点と後円部頂点との比高差約2mがあることが判った。また、当初の狙いであった形態の特徴も測量により図面化することができた。

2号墳の構造については発掘調査を行わなければ明確とはならないが、同一古墳群の中の前方後円墳にも形状のパリエーションが判る資料を作成できたことは今後の周知・普及において有効と思われる。

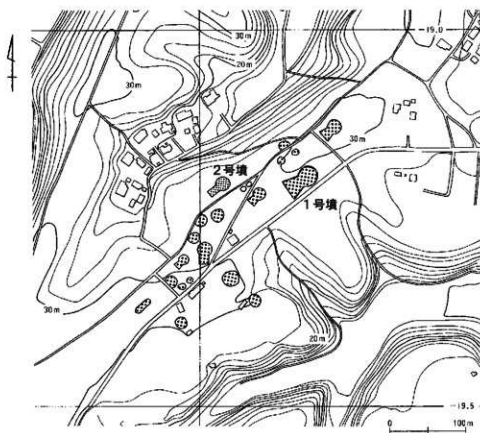
最後に、今回の地形測量調査が土地所有者である鈴木俊明氏の協力によって可能になったことを申し添えておく。

（参考文献）

千葉県教育委員会 「千葉県埋蔵文化財分布地図（1）—東葛飾・印旛地区（改訂版）—」 1998年
飯島・鈴木 「道作1号墳の調査について」『印西の歴史』創刊号 1999年



第11图 道作2号墳位置図(S=1/25,000)



第12图 道作古墳群狀況図(S=1/5,000)

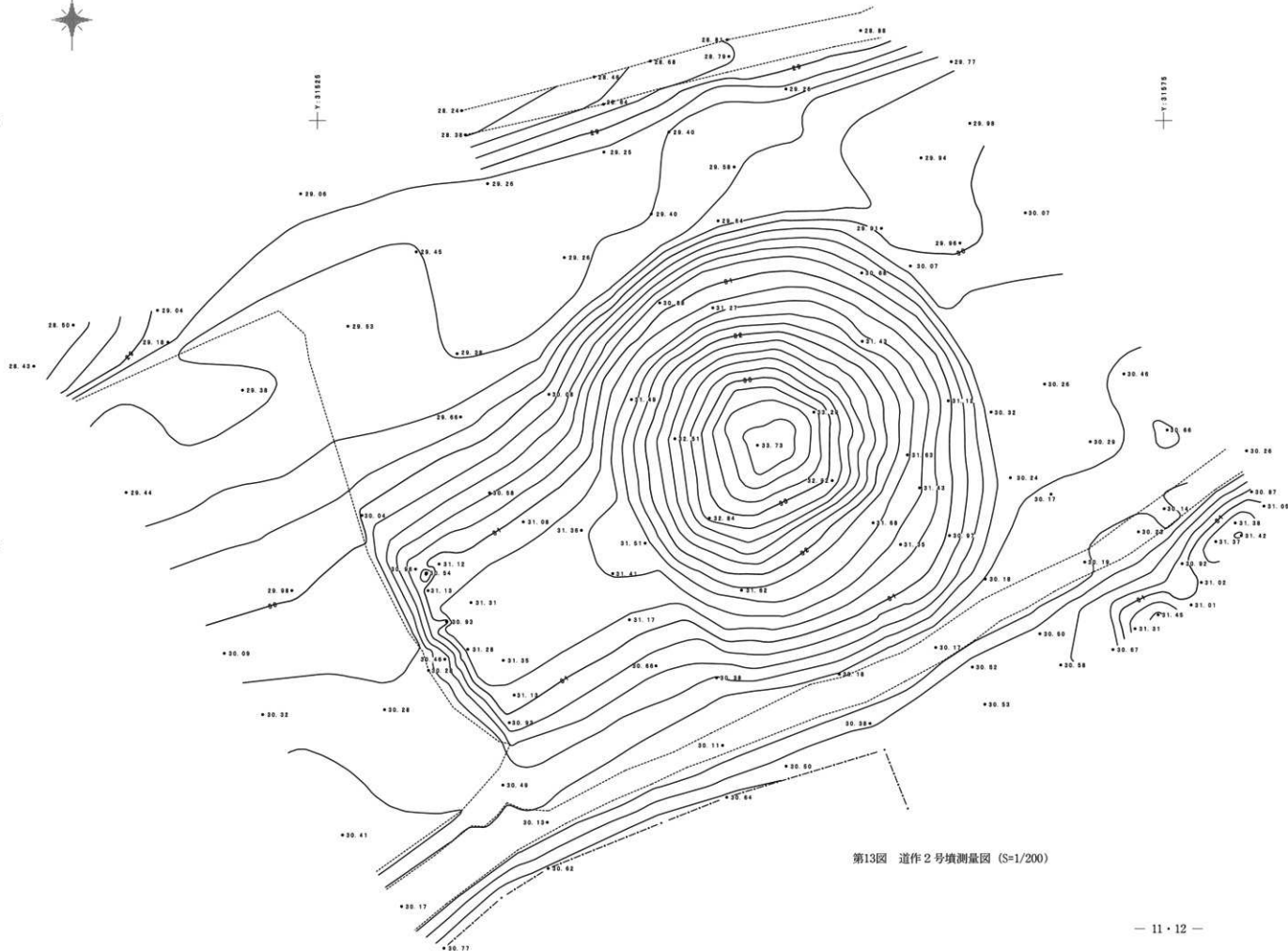


X: 18176

Y: 11926

Y: 11926

X: 18200



第13图 道作2号填测量图 (S=1/200)



近景



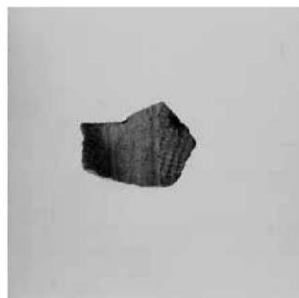
トレンチ1



トレンチ2



トレンチ3



天神台遺跡(第13地点)出土遺物



近景



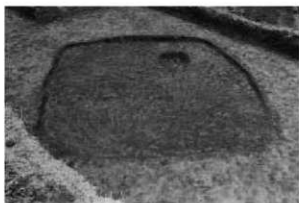
トレンチ1



トレンチ2



トレンチ3



1号住居跡完掘



掘立柱列完掘



1



2

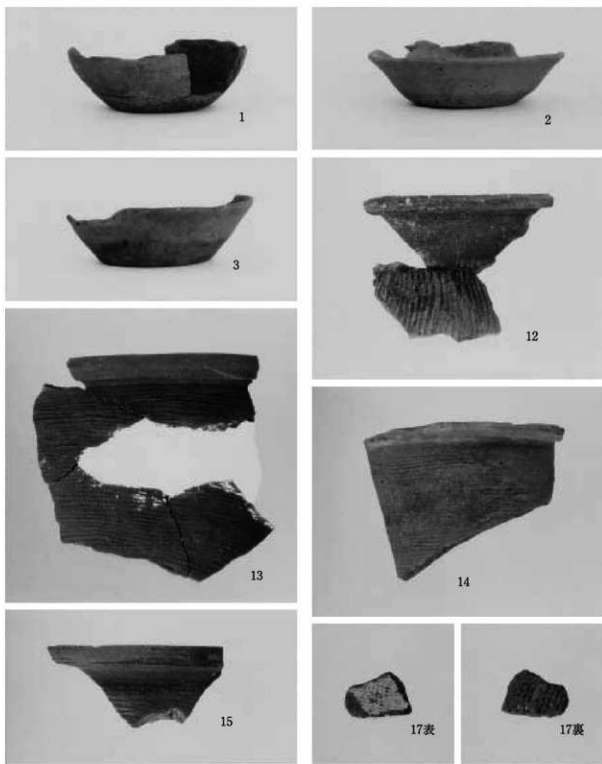


3



4

大畑遺跡 1号住居跡出土遺物



大畑遺跡3トレンチ出土遺物



西側から



北西から



東南から



後円部から前方部を望む

報告書抄録

| | |
|-------|--|
| 書名 | 平成15年度 印西市内遺跡発掘調査報告書 |
| 編著者名 | 飯島伸一 |
| 編集機関 | 印西市教育委員会 |
| 所在地 | 〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2 TEL0476-42-5111 |
| 発行年月日 | 2004年3月26日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村コード | 遺跡コード | 北緯 | 東経 | 調査原因 |
|------------------|---------------------|--------|-------|-------------|--------------|--------------|
| 天神台遺跡 (第13地点) | 印西市大森字呑内 2233番3 | 12231 | 17-13 | 35° 49' 28" | 140° 09' 10" | 個人宅造 |
| 大畑遺跡 | 印西市大森字前畑 2016番4他 | 12231 | 6 | 35° 49' 40" | 140° 08' 35" | 個人宅造 |
| 道作2号墳 | 印西市小林字馬場 2844番1他 | 12231 | 41-2 | 35° 49' 35" | 140° 10' 57" | 重要遺跡地形 測量 |

| 所収遺跡名 | 調査面積 | 調査期間 |
|---------------|----------------|-----------------|
| 天神台遺跡 (第13地点) | 47.75㎡/331.88㎡ | 平成15年8月18日 |
| 大畑遺跡 | 82.75㎡/632㎡ | 平成15年8月19日～21日 |
| 道作2号墳 | 2,000㎡ | 平成16年2月29日～3月5日 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|------------------|----|-------------|-------------------|---------------|------------|
| 天神台遺跡 (第13地点) | 集落 | 縄文時代 | | 縄文時代中期土器 片 | |
| 大畑遺跡 | 集落 | 弥生時代後期、奈良時代 | 住居跡3軒、掘立柱列(ピット2基) | 土師器、須恵器 | |
| 道作2号墳 | 古墳 | 古墳時代後期 | 前方後円墳 | | 古墳時代後期の古墳群 |

— 平成15年度 —

印西市内遺跡発掘調査報告書

平成16年3月22日 印刷

平成16年3月26日 発行

編集 印西市教育委員会

発行 印西市教育委員会

千葉県大森2364-2

印刷 三陽工業株式会社